

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	43人	算数	43人	理科	43人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	42人	算数	42人	理科	42人
------	----	-----	----	-----	----	-----

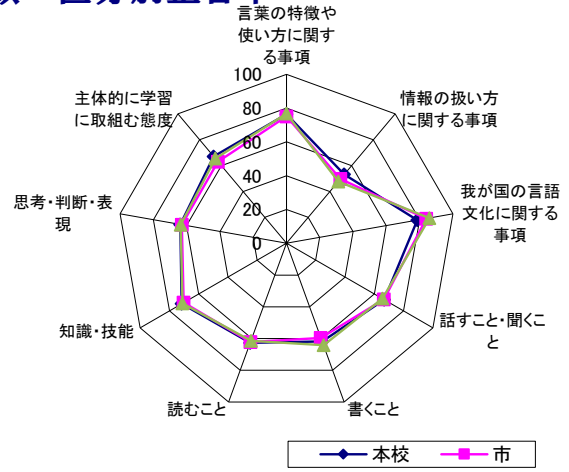
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	76.4	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	53.2	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	78.6	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	66.7	66.5	65.5
	書くこと	61.9	59.6	64.2
	読むこと	62.7	62.2	61.5
観点	知識・技能	71.6	70.2	71.1
	思考・判断・表現	63.8	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	67.1	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

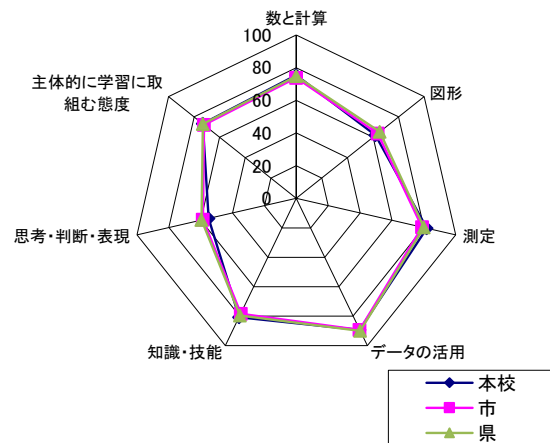
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○漢字の読み書きについての設問では、本校児童の正答率が県の正答率を10ポイント程度上回った設問があった。 ●主語と述語の関係を問う設問では、本校の正答率が県の正答率を10ポイント下回った。	・漢字の読み書きについては、これまでの基礎基本の定着を図るための小テストでの確認や習熟を高めるための家庭学習の支援を続けていく。 ・説明文の要約などにおいて、主語と述語を意識した記述を指導し、文章構成力の基礎を見直す。
情報の扱い方に関する事項	○国語辞典の使い方に関する設問では、本校児童の正答率が県の正答率を8.3ポイント上回った。 ●情報と情報との関係についての理解を問う設問では、本校児童の正答率が県の正答率を4ポイント程度上回っていたが、県の正答率自体が47.8%で低い水準となっていた。	・多くの情報の中から必要な情報を捉える力に課題が見られた。このことから、物語や説明文における読み取りの学習では、何を目的として文章を読むのかを意識させる課題の提示を徹底し、児童が必要な情報を捉えようと主体的に学習に取り組む学習指導を行う。
我が国の言語文化に関する事項	●漢字のへんやつくりの理解を問う設問では、本校児童の正答率が県の正答率を7.3ポイント下回った。	・新出漢字等の学習において、反復練習に留めることなく、漢字の成り立ちや漢字そのものが表す意味などに関心をもてるように指導の工夫を行うことで、児童の主体的な学びの態度を促し、漢字への興味を高める。
話すこと・聞くこと	○相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話しているかを問う設問では、本校の正答率が県の正答率を6.3ポイント上回った。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えているかを問う設問では、本校児童の正答率が県の正答率を4ポイント上回ったものの、県の正答率自体が36.9%と低い水準であった。	・聞き手として、話し手が伝えたいことの中心を捉えることに課題が見られた。このことから、話し手と聞き手が理解を共有できているかを確認するために、相手の発言を簡潔に言い直したり、聞き返したりする場面を授業の中に意図的に設ける。聞き手の目的意識を高めて対話の力を高めるための授業の工夫をする。
書くこと	●2段落構成で文章を書く設問では、本校児童の正答率が県の正答率を11.7ポイント下回った。	・文章を構成する力に課題が見られたので、ミニ作文や学習のまとめの記述など、日々の学習活動の中に文章を自分で構成して書く機会を増やし、個に応じた指導をしていく。
読むこと	○説明文の内容を読み取る設問では、本校児童の正答率が県の正答率を4ポイント程度上回った。 ●物語の内容を読み取る設問では、本校児童の正答率が県の正答率を8ポイント下回るが設問あった。特に場面の様子について叙述を基に捉える設問については、県の正答率自体が22.3%と低い水準であった。	・説明文も物語も、叙述を基に捉えることができるかを問う問題であったが、それぞれの正答率に差異が見られた。説明文において意識されている「順を追って述べる」ことが、物語では意識が薄いと考えられる。物語を扱う学習においても、順序立てた文章の構成を意識させる指導をしていく。

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.4	73.8	74.8
	図形	61.9	63.7	65.3
	測定	81.9	78.9	80.1
	データの活用	89.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	80.8	78.3	79.5
	思考・判断・表現	55.1	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	73.2	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

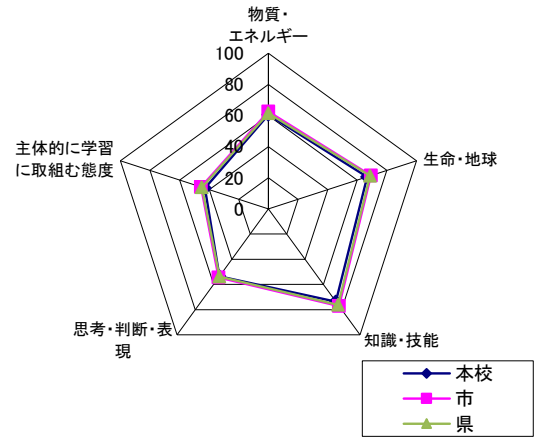
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○基礎的な四則演算の問題では、ほとんどの問題で本校児童の正答率が県の正答率を上回り、ひき算の筆算では17.8ポイントも上回った。</p> <p>●数の相対的な大きさや、数直線上に示された分数を読み取る問題では、本校児童の正答率が県の正答率を10ポイント程度下回った。</p>	<p>・基礎基本となる既習の四則演算はしっかりと身に付いている。これまで行っているドリルや練習問題の取り組みを続けていく。</p> <p>・数の相対的な大きさの理解に課題が見られた。数字で表される数量を具体物や数直線などに置き換えて思考できるように、視覚に分かりやすい数量の提示やそれに結びつけた練習問題を行い、復習する。</p>
図形	<p>○二等辺三角形を作図する設問では、本校児童の正答率が90%を上回り、県の正答率よりも高くよくできていた。</p> <p>●コンパスを使って形を描く設問や、円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明する設問では、本校児童の正答率が県の正答率を10ポイント程度下回った。</p>	<p>・朝の学習などを利用して、作図などの基本的な図形の書き方の復習問題に繰り返し、取り組ませる。</p> <p>・授業の中で、児童が主体的に考える時間を設け、基本的な図形の定義や性質について、言葉で説明できるように授業展開を工夫する。</p>
測定	<p>○時刻と時間の1分=60秒の関係を問う設問では、本校児童の正答率が92.9%あり、県の正答率の83.6%を大きく上回った。</p> <p>●地図から道のりを読み取って、その和を求める設問では、本校児童の正答率が県の正答率を6.8ポイント下回った。</p>	<p>・知識として得られた算数のきまりは覚えているが、それを活用することに課題が見られる。学習した内容が生活に生かされていることや学んだことを使って問題が解決できるようにする。そのために授業の課題設定や復習問題の工夫に取り組み、習熟を図る。</p>
データの活用	<p>○棒グラフに関する設問では、本校児童の正答率が90%程度あり、県の正答率とほぼ同程度であった。</p>	<p>・算数の学習だけでなく、学校生活の中で棒グラフを活用していく。</p> <p>・自分の考えを言葉や式、図などを用いて説明する活動を取り入れていく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.5	62.5	61.5
	生命・地球	66.7	69.2	68.6
観点	知識・技能	73.7	77.2	76.3
	思考・判断・表現	53.5	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	42.9	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○風やゴムのはたらきの設問では、本校児童の正答率が県の正答率より5ポイント程度上回った。</p> <p>●種類の異なる物質を同じ重さにしたとき、体積がどうなるかを資料から考える設問や、木や銅が方位磁針の針として使えるかどうかを判断し、その理由を記述させる設問において、どちらも本校児童の正答率が県の正答率より6ポイント程度下回った。この設問は県の正答率自体が25%程度で低い水準であった。</p>	<p>・実際に行った実験結果は理解できているが、結果を踏まえて得た自然のきまりを、実際に経験していないことに当てはめて考えることに課題が見られる。このことから、課題に対する予想・仮説を自分なりに思考し表現する活動や、実験結果から考察して自然界のきまりを見出す(判断する)ことを単元の中で丁寧に行い、児童が科学的なものの方・考え方を使うことができる授業展開の工夫を行う。</p> <p>・学習のまとめにおいて、学んだことが自分たちの実生活に生かされていることを伝え、理科学習の有用感や学習意欲を高める工夫をする。</p>
生命・地球	<p>○太陽と地面のようすに関する設問では、本校児童の正答率が県の正答率と同程度もしくは上回っていた。</p> <p>●ホウセンカとヒマワリのからだのつくりや、昆虫のからだのつくりの設問では、本校児童の正答率が県の正答率を大きく下回った。</p>	<p>・教科書や図鑑、インターネット上から得られる情報を活用しつつ、身近で実際に手に取ることのできる教材・教具の活用を徹底し、児童の実感を伴った理解が実現できるように授業の工夫改善を行う。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある。」と回答した本校児童の割合は県の平均よりおよそ1.5倍多かった。さらに「疑問や不思議なことに思うことは、分かるまで調べたい。」と回答した児童の割合も県の平均を上回っていた。このことから、学習への意欲や主体的に学ぼうとする姿勢が感じられる。今後も児童の学びの意欲を大切にしながら、学ぶ楽しさを感じられる学習展開を工夫していきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている。」と回答した本校児童の割合が、県の平均よりおよそ1.5倍多かった。学校生活や家庭生活、友人関係等で児童が充実した時間を過ごすことができている様子が伺える。今後も、家庭との連携を図りながら児童のよりよい成長に寄与できるよう努めていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う。」「自分のよさを人のために生かしたいと思う。」と回答した本校児童の割合が、1.2倍以上多かった。本校児童の自己肯定感、有用感が高い様子がうかがえる。これからも児童のよさを認め、自信をもって判断したり活動したりできる児童の育成をめざして指導を続けたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」「クラスは発言しやすい雰囲気である。」と回答した児童の割合が、それぞれ県の平均よりおよそ1.2倍多かった。児童同士の関係が良好であり伸び伸びと話し合い活動が行われている様子がうかがえる。これからも授業展開の中で話し合い活動を積極的に取り入れ、児童が考えを深めたり広げたりすることができるように指導を続けたい。

●「学校の授業時間以外に、ふだん1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか。」との質問に、「全くしない」と回答した本校児童の割合が2割を超え、県の平均を上回った。「読書をしている」との回答をした本校児童の1日当たりの読書をする時間は県の平均と比べて短い時間となっていた。懇談会や学年だより等で保護者への啓発を図り、学校外でも読書に親しませたい。

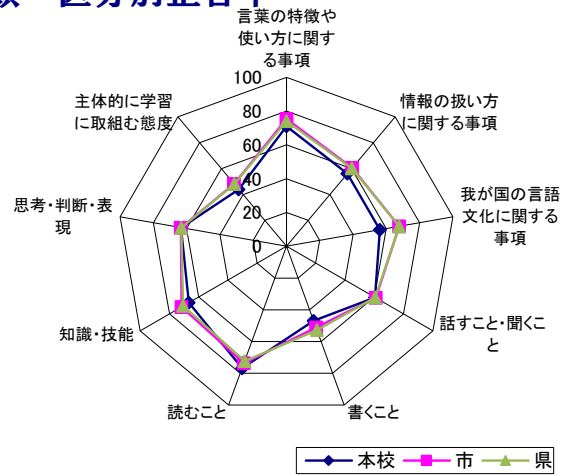
●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている。」と回答した児童は市の平均を下回った。ニュースに取り上げられる話題には、児童の心身の成長の上で必要な内容も含まれている。これに関心をもたせ、見識を広げたり道徳心を高めたりできるように、家庭や学級でニュースに触れる機会を増やしたい。

●「家でのかまりや約束を守っている。」と回答した児童の割合は、市の平均を下回った。学校生活の様々な場面できまりの大切さについて考えさせたり、かまりを守って生活することの気持ちよさを実感させたりして、規範意識を高めていきたい。

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.0	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	56.1	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	56.1	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	60.5	61.0	60.7
	書くこと	47.0	51.2	52.8
	読むこと	76.8	73.7	72.4
観点	知識・技能	66.7	71.7	70.6
	思考・判断・表現	63.4	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	43.9	48.2	48.1



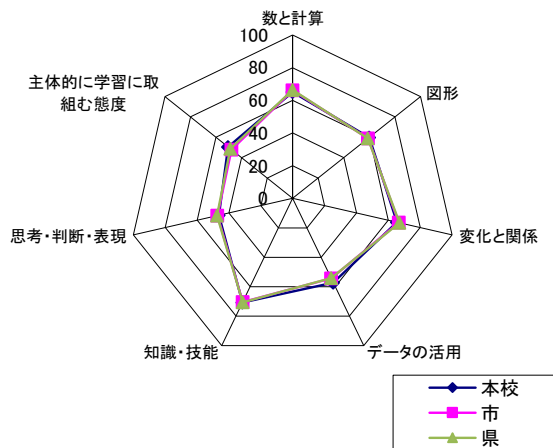
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	<p>○漢字を読む設問では、本校児童の正答率が90%を超えており定着している。</p> <p>●連用修飾語についての理解は、正答率の県平均から本校は6.9ポイント下回った。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>・文章の基本的な要素である主語・述語・修飾語に線を引き、意識して読んだり書いたりするよう指導する。</p> <p>・既習漢字においては、正しく漢字を読み、書けるようにするために意味調べや語句集め等も意識して漢字の練習を進めるようする。</p>
情報の扱い方に関する事項	<p>○説明文から情報を読み取り要約する設問では、本校児童の正答率が68.3%で、県平均を4.1ポイント上回った。</p> <p>●調査の結果をもとに、理由や事例などを挙げながら話すことについての設問では、本校児童の正答率が24.4%で、県平均から11.5ポイント下回った。</p>	<p>・国語の学習だけでなく、様々な教科で、複数の資料から分かることや問題点を整理する活動を行う。その活動を基に、根拠をもって自分の考えを書いたり、述べたりすることができるようにする。</p>
我が国の言語文化に関する事項	<p>●ことわざの意味を知り、正しく使うことに課題がみられる。</p>	<p>・ことわざや慣用句を日常生活の会話の中で教師が積極的に用いることで、児童が親しみを持ち、その意味や使い方の理解を深める。</p>
話すこと・聞くこと	<p>○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問では、本校児童の正答率は95.1%でほぼ全員が正答することができた。</p>	<p>・教師や友達の話を聞く際には、相手の意図することを考えながら、大切な部分を落とさずに聞けるよう改めて指導していく。聞き漏らしたり、詳しく聞きたかったりしたときには質問する等、工夫して話が聞けるよう指導する。</p>
書くこと	<p>○内容の中心を明確にし事実を伝える文章を書くことができている。一方で、自分の考えを書く設問では、本校児童の正答率が34.1%であった。</p> <p>●段落の役割について理解し、2段落構成文章を書く設問では、本校児童の正答率は43.9%だった。</p>	<p>・条件を指定した文章を書く機会を意図的に取り入れ、段落構成や文章のまとまりを項目立てたメモを作る等して、スモールステップで書く練習を進める。</p>
読むこと	<p>○物語の文章を読んで感じたことや考えたことを共有することがよくできていた。また、説明文を読み取って、段落相互の関係を捉えることができていた。</p> <p>●物語の登場人物の気持ちをとらえる設問では、本校児童の正答率は43.9%で、県の平均を大きく下回ってはいないが、課題がみられる。</p>	<p>・物語を読む際に、言葉や動作、表情など登場人物の気持ちが表れている文章に線を引き、細かい描写にも目を向けながら読み進めるよう指導する。</p> <p>・物語の読み聞かせを取り入れ、登場人物の気持ちを順を追って捉えるよう指導する。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.1	66.1	66.4
	図形	59.9	58.9	58.8
	変化と関係	65.4	66.6	67.0
	データの活用	57.3	54.4	54.2
観点	知識・技能	70.7	70.4	70.6
	思考・判断・表現	46.3	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	50.5	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

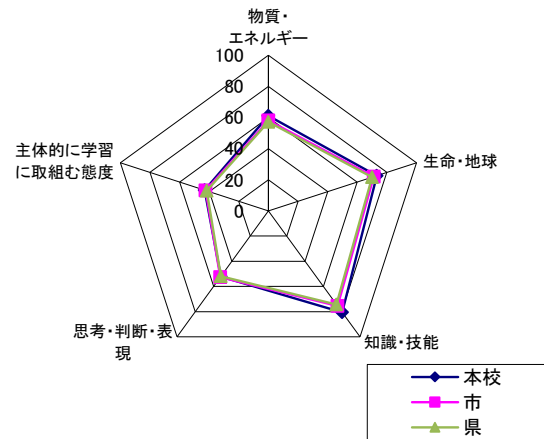
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○小数を10倍した数を求めることができた児童は、97.6%と、ほとんどの児童が理解できている。</p> <p>○整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較についての設問では、本校児童の正答率は県の平均正答率を8.7ポイント上回った。</p> <p>●数の相対的な大きさや概数に対応する数の範囲を問う設問では、本校児童の正答率は県の平均正答率を9ポイント程度下回った。</p> <p>●小数×整数の計算では、本校児童の正答率が県の平均正答率を12ポイント下回った。</p>	<p>・計算スキルやAIDリルを授業中に取り組んだり、宿題で適宜活用したりして、基礎的事項の確実な定着を図る。</p> <p>・授業の中で復習の時間を設け、計算の力が身に付くようにする。</p>
図形	<p>○直方体の面にある平行な辺を問う設問については、本校児童の正答率が県の平均正答率を7.1ポイント上回った。</p> <p>○平行四辺形の作図では、県の平均正答率を10.4ポイント上回った。</p> <p>●教室のおよその面積を選ぶ設問では、本校児童の正答率が県の平均正答率を6.8ポイント下回った。</p>	<p>・問題を解く際には、提示された情報から問題場面の状況を想像し、答えの見通しもつことを習慣化させる。</p> <p>・基礎的事項に加え、発展的な課題にも取り組ませる。</p>
変化と関係	<p>○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める設問では、87.8%の本校児童が正答している。</p> <p>●伴って変わる2つの数量の関係を表すことができた本校児童は46.3%で、県の平均正答率から5.4ポイント下回った。</p>	<p>・伴って変わる2つの数量の関係を式に表す類似問題を授業中に取り入れ、定着を図る。</p>
データの活用	<p>○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取る設問では、本校児童の正答率が80.5%で、県の平均正答率を15.1ポイント上回った。</p> <p>●表を利用して数の変化を説明する設問では、県の平均正答率と大きな差はないものの、本校児童の正答率は17.1%と低かった。</p>	<p>・グラフを読み取る際に、根拠を基に分かることを説明する活動を取り入れたり、理科や社会の学習で、グラフを読み取る活動を取り入れたりする。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.1	58.1	57.2
	生命・地球	73.2	71.1	70.0
観点	知識・技能	80.6	75.5	74.4
	思考・判断・表現	52.1	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	43.1	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○乾電池の向きを入れかえたときの車の進む向きについて問う設問では、本校児童の正答率が85.4%で、県の平均正答率62.0%を大きく上回った。</p> <p>○水を加熱する際に沸騰石を入れる理由を説明できた本校児童が90%を超えた。</p> <p>●乾電池を2個使って、乾電池を1個の時より速く走る車にするための作図をすることができた本校児童は22.0%で課題がみられる。</p> <p>●温度計のような温度による体積の変化を利用した道具を選ぶ設問では、本校児童の正答率が34.1%で、県の平均正答率を13.1ポイント下回った。</p>	<p>・実験等の実感を伴った活動を行う際に、結果の考察を自分の言葉で説明できるよう指導していく。</p> <p>・物の体積と温度の関係を再確認し、物の体積が変わることで日常生活でどのようなことが起こっているのか話したり見せたりして、身近に感じられるようにする。</p>
生命・地球	<p>○本校児童は、ツバメの1年間の様子やオオカマキリの冬の過ごし方をとてもよく理解していた。</p> <p>○本校児童は、雨水のゆくえと地面の様子とひなたに置いた水の蒸発について理解していた。</p> <p>●半月の1日の動きと、どの時刻の半月かについて問う設問では、本校児童の正答率は19.5%であり、県の平均正答率を大きく下回っているわけではないが、課題がみられた。</p>	<p>・季節による変化や身の回りで起こる事象を身近な問題として促えさせるような問題提起を行い、主体的に学習に取り組ませることで理解を深めていく。</p> <p>・月や星の項目については、ICTのアプリを用いて再確認し、日常生活に結び付けて指導していく。</p>

宇都宮市立豊郷北小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」の肯定的回答は92.7%で市や県の肯定的回答よりも高い。今後も自主学習と合わせて、家庭学習が定着するよう指導していく。

○「学校の宿題は自分のためになっている」「勉強をされていて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「勉強をされていて、『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」への肯定的回答は、いずれも市や県の肯定的回答を上回っており、学習への興味・関心の高さがうかがえる。今後も学ぶ楽しさを実感できるよう、指導する。

○「むずかしいことでも、失敗をおそれないでしよう戦している」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「しょう来の夢や目標をもっている」の肯定的回答は、いずれも市や県の肯定的回答を上回っており、自身の能力や将来に前向きな児童が多いことがうかがえる。学校・学級においても力を十分に発揮し、さらなる自信につなげられるよう支援していく。

○「家の人と学校の出来事について話をしている」「家の人としょう来のことについて話すことがある」への肯定的回答は、いずれも市や県の肯定的回答を上回っており、家族との良好な関係を築くことができていることがうかがえる。これからも、保護者の協力を得ながら児童にとって充実した学校生活が送れるよう支援したい。

●「授業を集中して受けている」の肯定的回答は、90.3%と9割を超えるものの、市や県の肯定的回答と比較すると若干低い。児童の関心が高まるよう発問や学習形態を工夫したい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」の肯定的回答が市や県の肯定的回答よりも低い。話し合いの機会を増やしたり、話し合い方のルールを示すことで、話し合いのスキルを身に付けていく。

●「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」の肯定的回答は、65.8%で市や県の肯定的回答と比較して10ポイント以上低い。総合的な学習の時間の宇都宮学等を利用し、地域や社会への関心を高められるよう指導していく。

宇都宮市立豊郷北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業のねらいを明確にした課題提示	学習のきまりの共通理解を図り、児童に指導するとともに、発問や指示、説明、板書等が明確になるよう心掛けて指導する。 朝の学習を活用して基礎基本の定着を図る。また、話し方・聞き方のポイントを掲示物で示し、児童が意識しながら話し	「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」への肯定的回答をした児童は4年生で85.7%、5年生で73.2%と、学習への取り組み方に学年差が見られる。 各教科の知識・技能において、4、5年生共におおむね市の平均と同程度だった。
学習の振り返りを大切に、自分の学びをまとめる力の育成	授業において、その時間のめあてを確認すると共に、振り返りの時間を確保し、理解できたことやできるようになったこと、自分の課題等を児童が実感できるようにする。 互いの考えを交換し合う機会や場を確保し、自分の考えを広めたり深めたりできるようにする。	「授業であつかうノートには、学習の目標とまとめを書いている」児童は4年生で88.1%、5年生で95.1%、「授業の最後に、学習したこと振り返る活動をよく行っている」の設定で肯定的回答をした割合は4年生で85.8%、5年生で79.5%である。 「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の設定で肯定的回答をした割合は、4年生81.9%、5年生が68.3%である。
基本的な学習態度や習慣の育成	学年の発達段階に応じた家庭学習の時間を設定し、児童が進んで学習に取り組めるよう指導を工夫する。 家庭学習強化週間を設けたり、懇談会等で家庭学習について話題にしたりと、保護者への啓発を図る。	「家で学校の宿題をしている」児童は、4、5年生共に97%を超える。しかし「自分で計画を立てて勉強している」の設定において、肯定的回答の割合は4年生が80.0%、5年生が63.4%である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査では、国語において基礎基本の定着が図れていない部分がある。また、学年、教科によって思考・判断・表現に課題が見られた。	国語の基礎基本の定着や、文章構成や書き表し方の理解などの「書く力」の育成	既習の漢字を反復することにより定着を図る。また、文章全体の構成を考えて文章を書く機会を意図的に設定し、自分の考えを読み手に分かりやすく書く力が付くように指導に取り組んでいく。文章による表現力を高めたい。
読書に対する児童の興味・関心に個人差が大きく、関心が高い児童の割合は多くない。	児童の読書活動の推進	朝の読書の時間や読書週間など、これまでの取り組みを生かして児童の読書への意識を高めるとともに、さらに読書の重要性を強調して児童に伝え、家庭と連携を図り本に親しむことを啓発する。